

読解 地図は何をかかないか

がつ にち

次の文章を読んで、問いに答えましょう。

① 手がきの地図でも、友だちが迷わずに来られたのはなぜですか。

ア 道をよく知っていたから
イ 必要なものだけかいたから
ウ 町を正確に写したから

② 筆者は、地図を何だと述べていますか。「もの」に続く十九字をぬき出しましょう。(19字)

③ 路線図の例は、何を説明するためのものですか。

ア 路線図は使わないほうがよい
イ 省かれたものはないことになる
ウ となりの駅には歩いて行けない
エ 駅間の道のりはどこも同じ

④ 友だちが息を切らしていたのはなぜですか。「省」の字を使って書きましょう。

友だちを家に招いたとき、駅まねからの道を手がきの地図にしてわたしたことがある。かいたのは、駅と、二つの曲がり角と、角にあるコンビニだけ。それでも友だちは、迷わずに家まで来ることができた。

地図は、町をそのまま写した絵ではない。目的に合わせて、何をかかないかを選んだものである。家も木も電柱もすべてかきこんだら、曲がり角を見つけるのに、かえって苦勞するだろう。地図は、省くからこそ役に立つのだ。

けれども、省かれたものは、地図の上では「ないもの」になってしまう。電車の路線図では、駅と駅が同じ間をあけて、まっすぐな線でつながれている。しかし、実際の駅の間の道のりはばらばらだ。路線図だけを見て「となりの駅なら歩ける」と考えると、思わぬ遠さにおどろくことになる。

地図を使うときは、その地図が何のために、何を省いてかかれたのかを考えることが大切である。あの日、友だちが息を切らして家の前に立っていたのは、わたしの地図に、長い坂道がかかれていなかったからだ。

